

フィデューシャリー・ESG 原則に係る取組み 状況について

2020 年 1 月 29 日

日興アセットマネジメント株式会社

代表取締役会長兼共同 CEO 佐谷戸 淳一

代表取締役社長兼共同 CEO 安倍 秀雄

<はじめに>

私たちは、お客様からお預かりした資産の運用に携わるものとして、お客様の最善の利益を最優先に行動することを使命とし、フィデューシャリー原則とESGの原則を当社の企業理念と企業活動の最高位に位置付けています。

また、私たちは責任ある機関投資家として、ESG(環境・社会・ガバナンス)評価やスチュワードシップ活動を投資プロセスの中核に位置付け企業の長期的な価値向上と持続可能な社会の成長に貢献する活動に日々努めています。

日興アセットマネジメントは、個人のお客様から機関投資家のお客様まで幅広い投資家の皆様に様々な形で運用力を提供するいわゆる投資信託や運用商品の専門メーカーです。メーカーとして、お客様の資産形成や資産運用に少しでもお役に立てるよう、日々、お客様から賛同とご支持をいただける商品の提供や運用力向上のための工夫、商品のリスクリターンを分かりやすくご理解いただくための取組み、お客様の投資判断に貢献できる社会情勢や市況情報に関するニュートラルな情報発信といった活動を続けています。そういった各種取組みについて、2019年の総括を具体例や自主的指標と共にご報告させていただきます。

1. 個人および法人のお客様に向けた活動

1.1 個人のお客様に向けた活動

私たちは、資産運用会社としてお客様の中長期の資産形成のお役に立つことが、最も重要な使命であると考えています。そのため、良い運用成果をご提供する事はもちろん、資産運用や私たちが提供する商品に関する正しい知識を分かりやすく簡潔にお伝えすること、お客様の投資判断のお役に立てるよう適時適切に市場動向に関する積極的なそしてニュートラルな情報発信をすること、中長期投資に適した商品をお客様のニーズに応じて提供すること、お客様の投資のリスク管理のお手伝いをするなど、あらゆる面での努力が必要であると考えています。

以上に挙げた項目につきまして、これまでの取組みやその成果をご紹介します。

1.1.1 残高上位10ファンドの想定平均保有期間

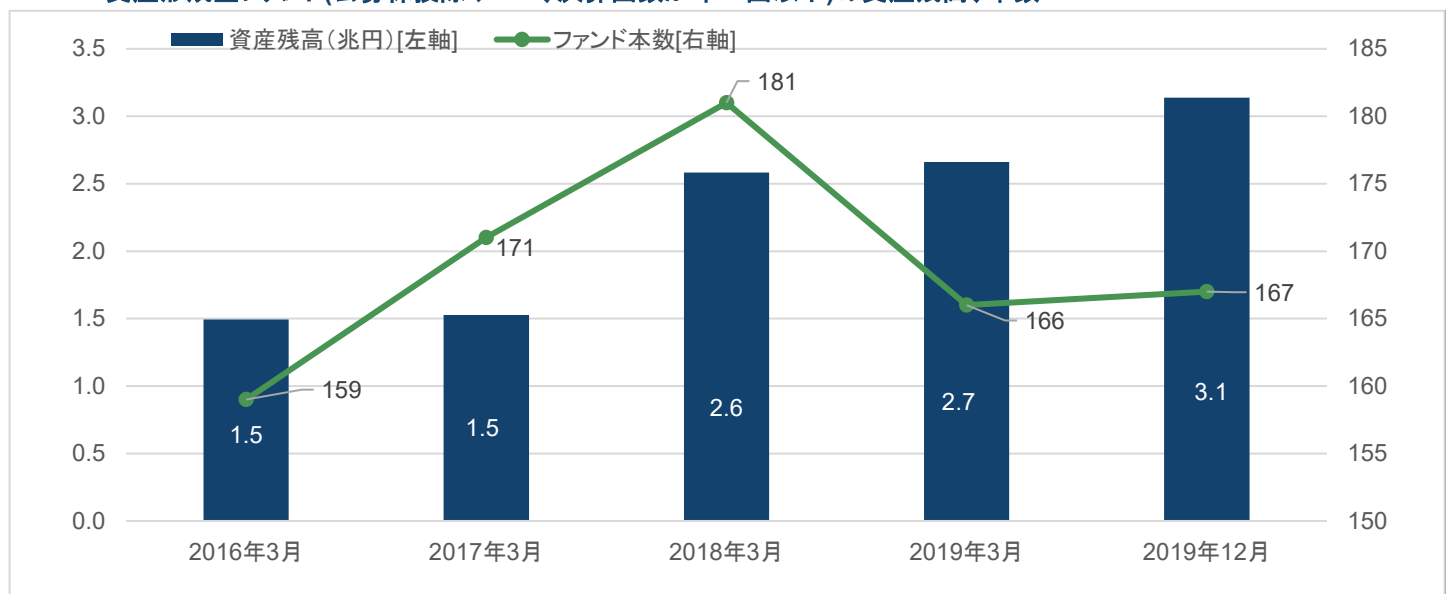
順位	ファンド名称	想定平均保有期間(年)	残高(億円)	ファンドの投資先・タイプ
1	ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	5.47	4,632	海外リート・アクティブ
2	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	6.09	4,009	バランス
3	グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	2.36	3,711	海外株式・アクティブ
4	グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)	4.42	3,600	バランス
5	スマート・ファイブ(毎月決算型)	8.62	3,539	バランス
6	グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	1.85	3,237	海外株式・アクティブ
7	インデックスファンド225	2.21	1,999	国内株式・パッシブ
8	グローバル3倍3分法ファンド(隔月分配型)	5.48	1,947	バランス
9	グローバル・フィンテック株式ファンド	1.60	1,712	海外株式・アクティブ
10	高金利先進国債券オープン(毎月分配型)	4.92	1,160	海外債券・アクティブ

※想定平均保有期間は「年間平均残高÷年間解約額」で計算(計算期間は2019年の1年間)した理論上のもので、投資家の実際の平均保有期間とは異なります。

※設定額や残高に比して解約額が非常に少ないファンドは、投資家が実際に保有した期間より大きな値となることがあります。

※残高は2019年12月末。運用期間が1年未満のファンド、ETF、MRFを除いた残高上位ファンド。

1.1.2 資産形成型ファンド(公募株投除くETF、決算回数が年2回以下)の資産残高、本数



当社は運用会社としてお客様の中長期的な資産形成のお役に立つことを最大の使命としています。資産運用会社のビジネスは、お客様の資産と共に成長して初めて成長できるビジネスです。長期的な資産形成に適した公募株投(除くETF、決算期間が年2回以下)のファンドは増加傾向にあり、2019年12月時点で、167ファンド、運用資産は約3.1兆円になります。

当社が考える、お客様の中長期的な資産形成ニーズに適している主な公募投資信託(例)

ファンドの投資先	ファンド名称	決算期間	残高(億円)
国内株式・アクティブ	ジャパン・ロボティクス株式ファンド	年1回、2回	894
	日興ジャパンオープン	年1回	362
	年金積立Jグロース(愛称:つみたてJグロース)	年1回	292
海外株式・アクティブ	グローバル・ロボティクス株式ファンド	年1回、2回	7,414
	グローバル・フィンテック株式ファンド	年1回、2回	3,079
海外債券・アクティブ	高金利先進国債券オープン(資産成長型)(愛称:月桂樹)	年1回	93
バランス	スマート・ファイブ(1年決算型)	年1回	510
	ファイン・ブレンド(資産成長型)	年1回	200
	GW7つの卵	年1回	559
	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)資産成長型	年1回	151
	グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)	年1回	3,600

※残高は2019年12月末。シリーズファンドの場合は、合計値を記載。ファンドの投資先別に運用資産残高が大きい順。

※複数決算タイプのファンドの場合、ハイパーリンクは残高の一番大きいファンドのページにリンクを張っています。

1.1.3 つみたて NISA も含めた積立投資への取組

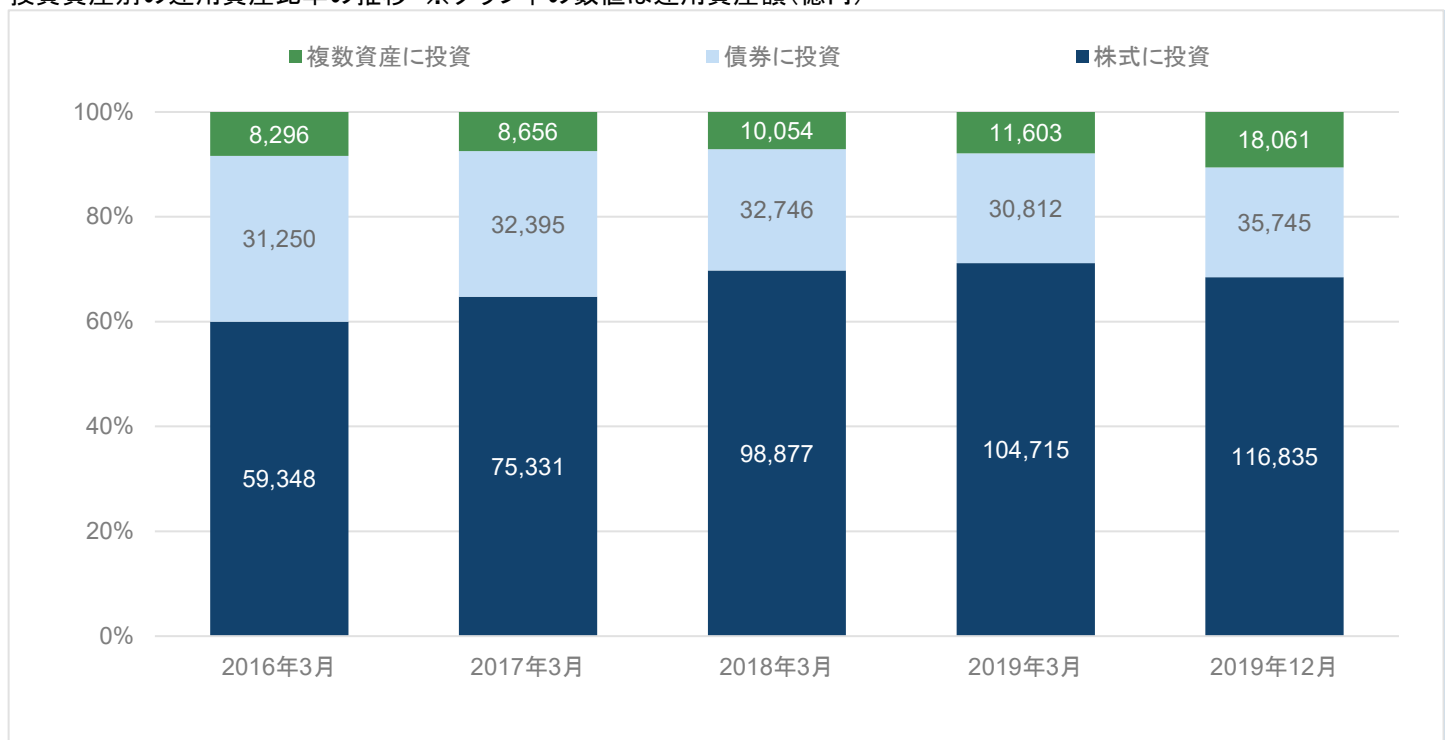
当社は、「つみたて NISA」のみならず、DC・iDeCo や一般口座での積立投資の推進にも注力しており、資産形成層に対して“長期・積立・分散投資”を提唱しております。販売会社に商品を提供するだけでなく、各種サポートツールも制作・提供し、積立投資への取組みを支援しています。

現在、当社では「つみたて NISA」適格ファンドとして 5 本の登録が完了しております。

また、販売会社向けに“商品戦略セミナー”等において、投資家のインベスターリターンを向上させるための実効性が高い方策として、「積立投資を実践すること」を強調しました。

1.1.4 国内籍公募投資信託の運用資産とパフォーマンス(ETF、MRF 等を含む)

投資資産別の運用資産比率の推移 ※グラフ中の数値は運用資産額(億円)



国内籍公募投信の残高合計の推移 (単位:億円)

2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2019年12月
98,894	116,382	141,678	147,130	170,642

※集計対象は、公募投資信託(ETF、MRF 等を含む)。

※「株式に投資」には、リートを含む。

当社は運用部隊を人事評価及び処遇面においてもプロとして明確に位置付けており、ファンド・マネージャーやアナリストは独自のキャリア・パスを持っています。また評価・報酬体系は、中長期の運用成績を重視しています。加えて、主要な運用者に対しては、グローバルにリテンションの仕組みを導入しています。当社では、このような評価・報酬体系や仕組みを通してファンドのパフォーマンス向上に取り組んでいます。

当社がお客様からお預かりしている公募投資信託の投資資産別の割合(2019年12月末)は、「株式に投資するファンド」が68%、「債券に投資するファンド」(MRF 含む)が21%、「複数資産に投資するファンド・その他のファンド」が11%となっております。

[株式に投資するファンド] 過去3年間の騰落率上位

順位	ファンド名称	設定年月	残高 (億円)	騰落率(分配金込み)(%)			
				設定来	5年	3年	1年
1	日興グローイング・ベンチャーファンド	2003年7月	207	420%	162%	111%	25%
2	グローバル・フィンテック株式ファンド	2016年12月	1,712	79%	-	83%	37%
3	日本新興株オープン	1996年12月	176	434%	105%	62%	18%
4	グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	2015年8月	3,237	67%	-	48%	35%
5	グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	2015年8月	3,711	66%	-	48%	35%
6	年金積立 Jグロース	2001年10月	292	175%	56%	36%	26%
7	ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	2016年1月	693	50%	-	36%	24%
8	利益還元成長株オープン	1991年6月	292	116%	56%	36%	26%
9	ジャパン・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	2016年1月	200	50%	-	36%	24%
10	インデックスファンド海外株式ヘッジなし(DC専用)	2002年12月	530	271%	38%	36%	29%
(参考指標:国内株式) TOPIX					22%	13%	15%
(参考指標:海外株式)MSCI 全世界株式インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)					22%	27%	25%

※公募追加型投資信託(ETF含む)。残高は2019年12月末。残高100億円未満のファンドは除外

[債券に投資するファンド] 過去3年間の騰落率上位

順位	ファンド名称	設定年月	残高 (億円)	騰落率(分配金込み)(%)			
				設定来	5年	3年	1年
1	日興ピムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(米ドルコース)	2003年9月	195	152%	18%	15%	13%
2	上場インデックスファンド新興国債券	2012年1月	203	47%	-1%	11%	10%
3	インデックスファンド海外債券ヘッジなし(DC専用)	2002年12月	303	84%	-3%	6%	5%
4	上場インデックスファンド海外債券(FITSE WGIBI)毎月分配型	2009年9月	261	44%	-4%	5%	5%
5	日興五大陸債券ファンド(毎月分配型)	2006年6月	509	46%	-3%	5%	6%
(参考指標)FTSE 世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)					-2%	7%	5%

※公募追加型投資信託(ETF含む)。残高は2019年12月末。残高100億円未満のファンドは除外

[複数の資産に投資するファンド・その他] 過去3年間の騰落率上位

順位	ファンド名称	設定年月	残高 (億円)	騰落率(分配金込み)(%)			
				設定来	5年	3年	1年
1	GW7つの卵	2003年2月	559	158%	22%	20%	17%
2	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	2003年8月	4,009	128%	20%	18%	15%
3	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)資産成長型	2009年8月	151	98%	19%	18%	15%
4	日興スリートップ(隔月分配型)	2006年10月	243	58%	10%	17%	14%
5	DCインデックスバランス(株式60)	2002年12月	104	133%	24%	16%	13%

※公募追加型投資信託(ETF含む)。残高は2019年12月末。残高100億円未満のファンドは除外

直近1年間の騰落率上位10ファンド

順位	ファンド名称	設定年月	残高 (億円)	騰落率(分配金込み)(%)			
				設定来	5年	3年	1年
1	深セン・イノベーション株式ファンド(1年決算型)	2017年11月	385	1%	-	-	54%
2	グローバル・フィンテック株式ファンド	2016年12月	1,712	79%	-	83%	37%
3	グローバル・フィンテック株式ファンド(年2回決算型)	2017年9月	1,083	38%	-	-	36%
4	グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	2015年8月	3,237	67%	-	48%	35%
5	グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	2015年8月	3,711	66%	-	48%	35%
6	グローバル・ロボティクス株式F(為替ヘッジあり・1年決算型)	2017年1月	243	44%	-	-	35%
7	グローバル・ロボティクス株式F(為替ヘッジあり・年2回決算型)	2017年1月	222	44%	-	-	35%
8	グローバル・フィンテック株式ファンド(為替ヘッジ有)	2017年9月	179	33%	-	-	35%
9	グローバル・フィンテック株式ファンド(為替ヘッジ有・年2回決算型)	2017年9月	106	33%	-	-	35%
10	グローバル3倍3分法ファンド(隔月分配型)	2018年10月	1,947	29%	-	-	33%

※公募追加型投資信託(ETF含む)。残高は2019年12月末。残高100億円未満のファンドは除外

1.1.5 ファンド運用の効率化への取組み

運用会社は、投資家の皆様に対して、より魅力的で良質な商品を開発・運用し続けていくことが大事だと考え、日々、当社ファンドのラインナップ拡充や残高拡大に努めております。

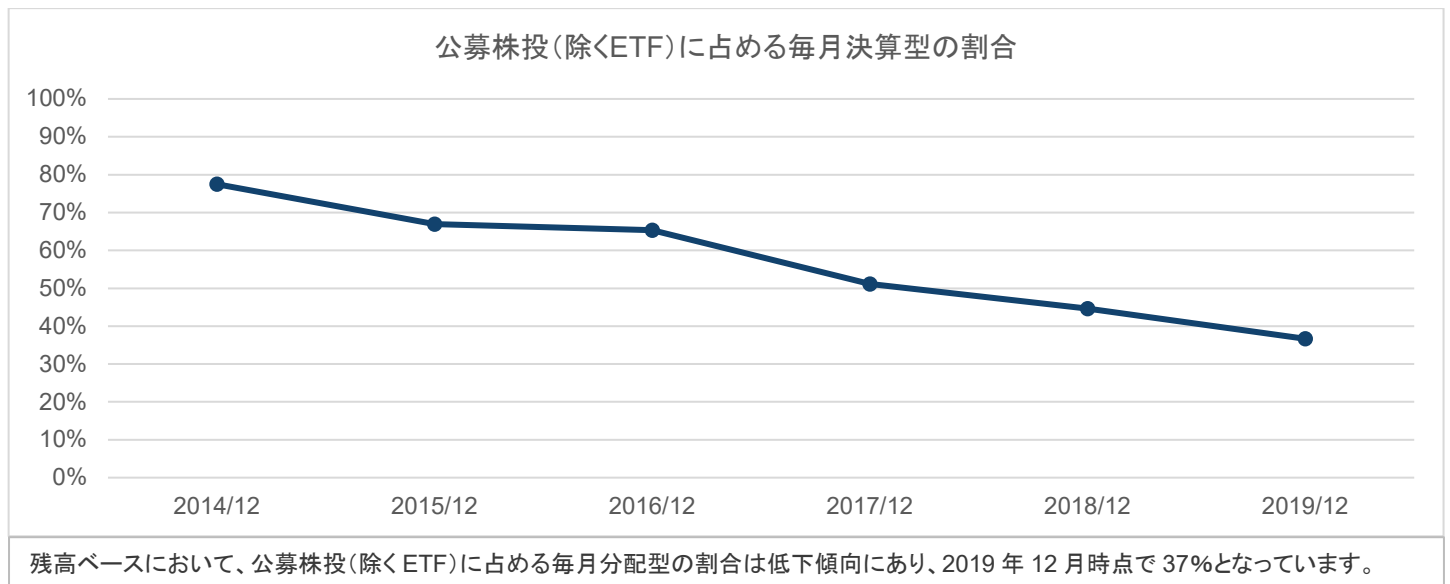
しかしながら、当社ファンドの中には残高が小規模となっているものがあることも事実です。そうしたファンドは運用コストが相対的に高くなり、投資信託説明書や信託約款等で定めた運用方針に沿った運用が困難となるなど、結果としてお客様の期待する投資成果を中長期的に継続して実現することが困難となる場合があります。

当社では、そうした小規模ファンドについて、信託期間満了による償還に加えて、信託期間繰上による償還を法令に基づいた手続きを行なった上で進めております。

2019年1月～2019年12月において、公募投信で償還を行ったファンドは16本、このうち受益者様のご理解を得て繰上償還を行ったファンドは10本です。

こうした取り組みは、ファンドの良質な商品性の維持や良好な投資成果の実現を達成するために不可欠なものであり、当社の人的資源を効果的に配分することは、中長期的に投資家の皆様の利益につながっていくものと確信しております。

1.1.6 中長期投資のための分配パターンの変更:国内籍公募投資信の残高構成比



1.1.7 当社代表ファンドのリスクリターン 特性について

<当社代表ファンドの選定手順>

1. 当社の公募投信の中から、マネー型、ETF、インデックスファンドを除外し、2019/10/末時点の残高でランキング。
2. 残高上位ファンドの中にシリーズファンドが複数あった場合は、残高の大きいファンドの方を採用。
3. 運用期間に関しては、2019/11/末時点で、1年未満のファンドは除外し、次表の19本を代表ファンドとした。

	ファンド名称	残高(億円) 2019/12/末	設定年月	資産クラス	リスクリターン プロファイル上での略称名
1	ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	4,632	2004年3月	グローバルリート	ラサール(毎月)
2	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	4,009	2003年8月	バランスファンド	財産3分法F
3	グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	3,711	2015年8月	外国株式	グロボロボ年2回
4	グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)	3,600	2018年10月	バランスファンド	*運用期間2年未満のため、グラフ未掲載
5	スマート・ファイブ(毎月決算型)	3,539	2013年7月	バランスファンド	スマート・ファイブ(毎月)
6	グローバル・フィンテック株式ファンド	1,712	2016年12月	外国株式	グローバル・フィンテック
7	高金利先進国債券オープン(毎月分配型)	1,160	2003年8月	外国債券	月桂樹
8	ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	693	2016年1月	日本株式	ジャパロボ年1回
9	GW7つの卵	559	2003年2月	バランスファンド	GW7つの卵
10	グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)	557	2018年1月	外国株式	*運用期間2年未満のため、グラフ未掲載
11	日興五大陸債券ファンド(毎月分配型)	509	2006年6月	外国債券	五大陸債券F

日興アセットマネジメント株式会社

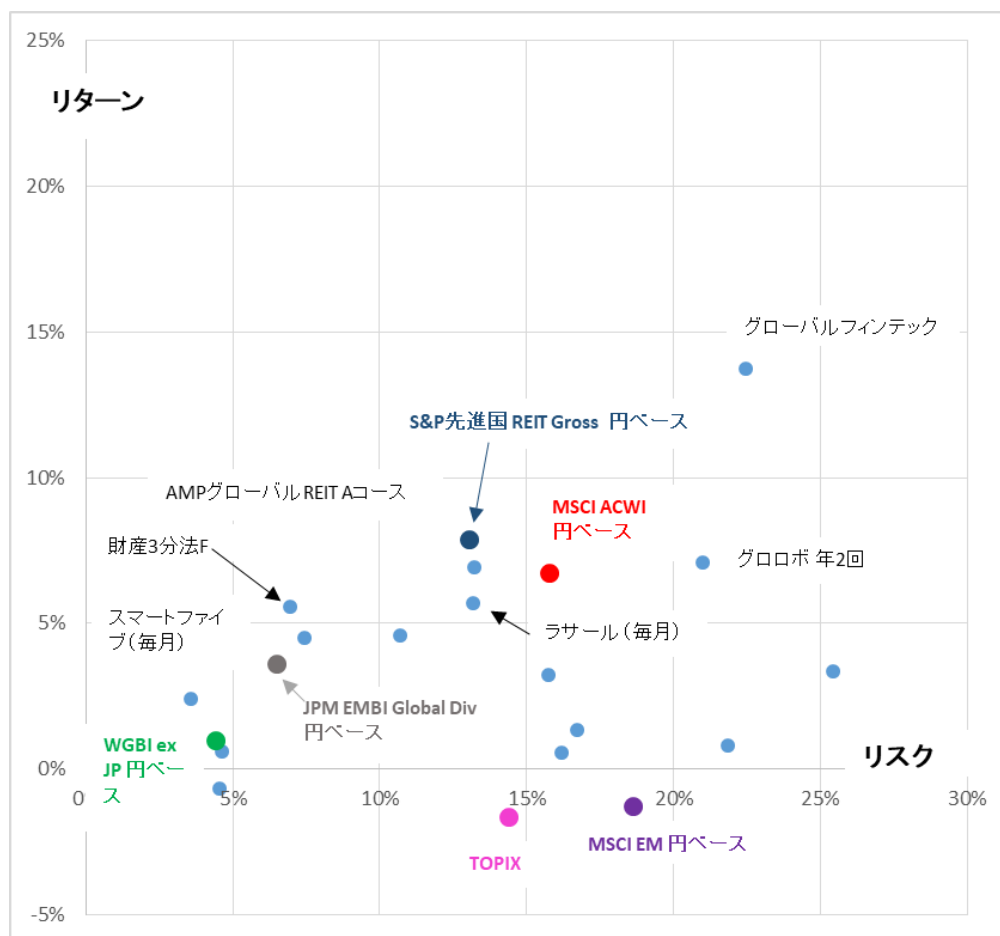
〒107-6242 東京都港区赤坂九丁目7番1号 ミッドタウン・タワー

www.nikkoam.com

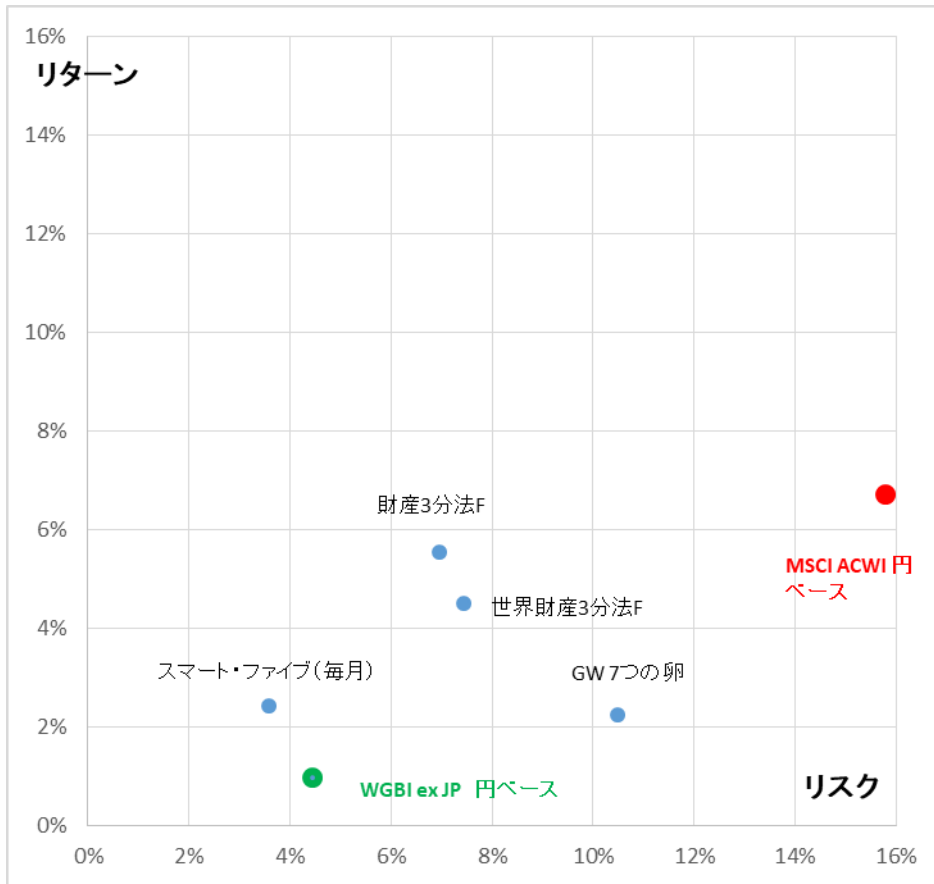
12	中華圏株式ファンド(毎月分配型)	434	2010年10月	外国株式	中華圏株式 F
13	ゴールド・ファンド 為替ヘッジあり(SMA専用)	398	2017年9月	その他	*資産クラスがその他のため、グラフ未掲載
14	日興・AMPグローバルREITファンド 毎月分配型 A(ヘッジなし)	394	2004年1月	グローバルリート	AMP グローバル REIT Aコース
15	深セン・イノベーション株式ファンド(1年決算型)	385	2017年11月	外国株式	深セン・イノベーション
16	日興ジャパンオープン	362	1998年8月	日本株式	ジパング
17	日興ピムコ・ハイソブリン・ファンド毎月分配型(米ドルコース)(注1)	-	2009年7月	外国債券	ピムコハイソブリン(毎月)USDコース
18	世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	329	2005年9月	バランスファンド	世界財産3分法 F
19	利益還元成長株オープン	292	1991年6月	日本株式	Jグロー

(注1)ピムコ・ハイソブリンは、同一ストラテジーの代表ファンドである米ドルコース(円建て)のリスクリターンの数値を採用。米ドルコースは、同一ストラテジーの最大残高ファンドと異なるので、混同防止のため、残高の数値はblankとした。

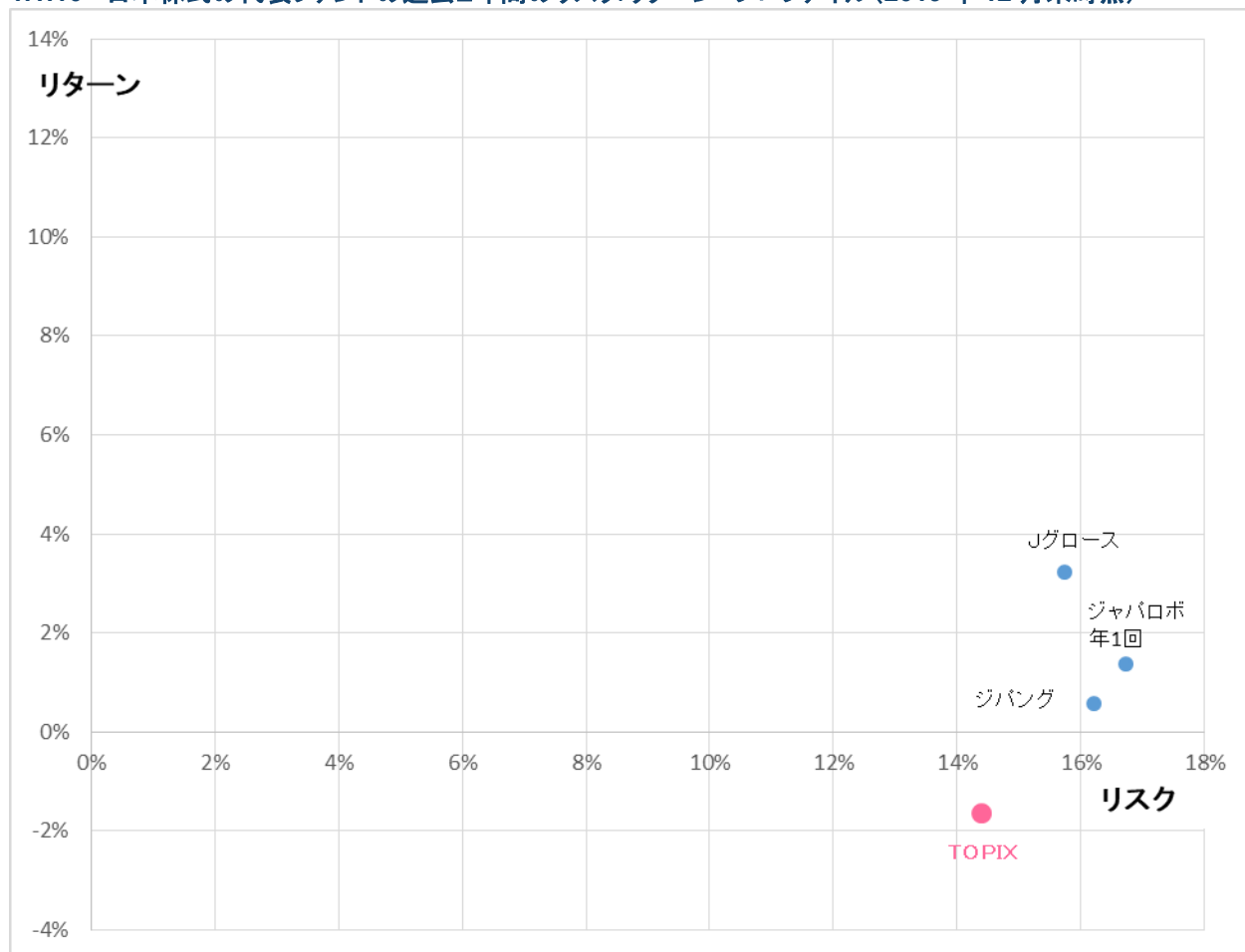
1.1.8 代表ファンドの過去2年間のリスクリターン プロファイル(2019年12月末時点)



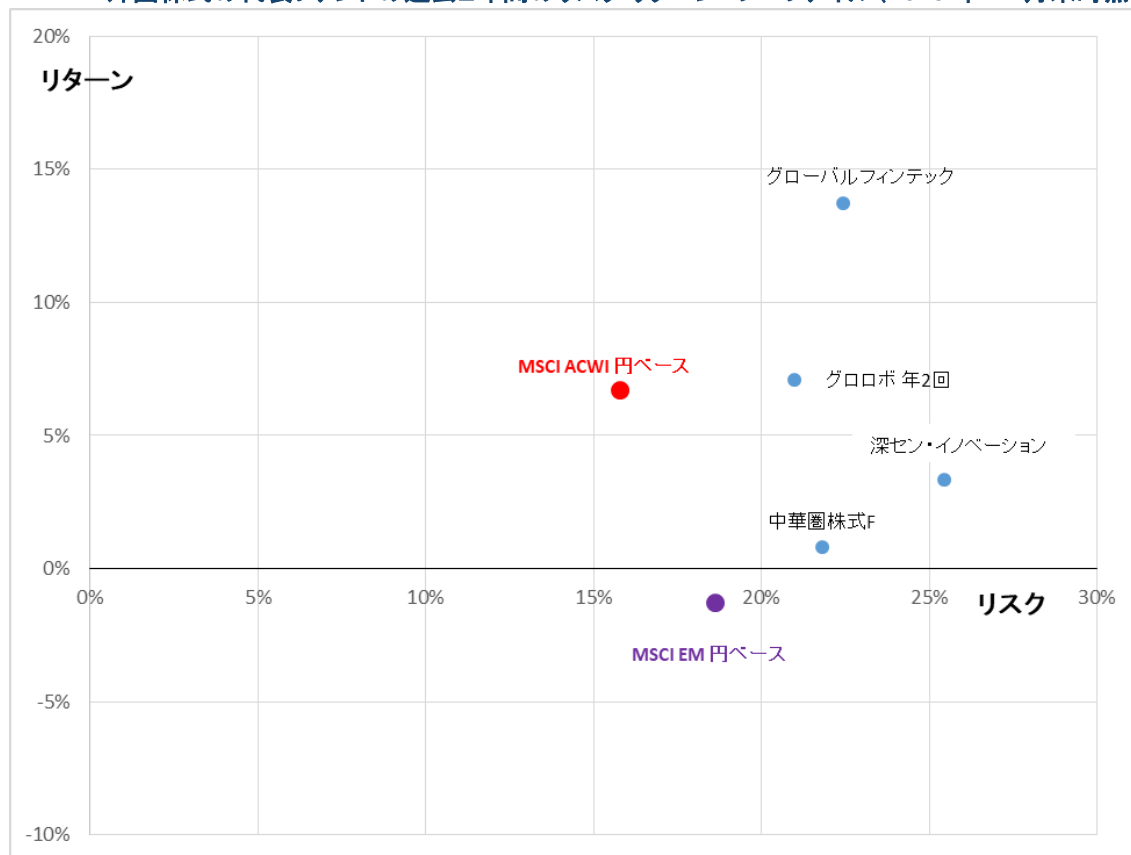
1.1.9 バランスファンドの代表ファンドの過去2年間のリスク/リターン プロファイル(2019年12月末時点)



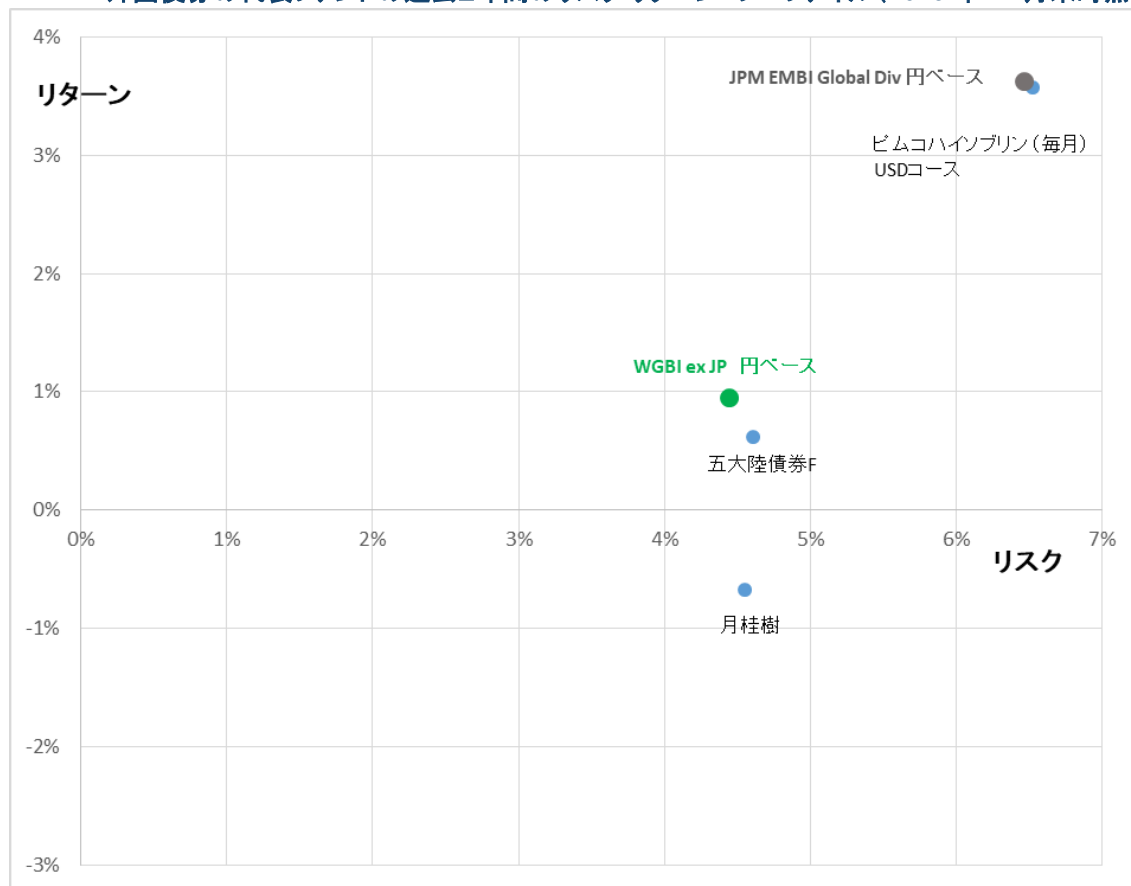
1.1.10 日本株式の代表ファンドの過去2年間のリスク/リターン プロファイル(2019年12月末時点)



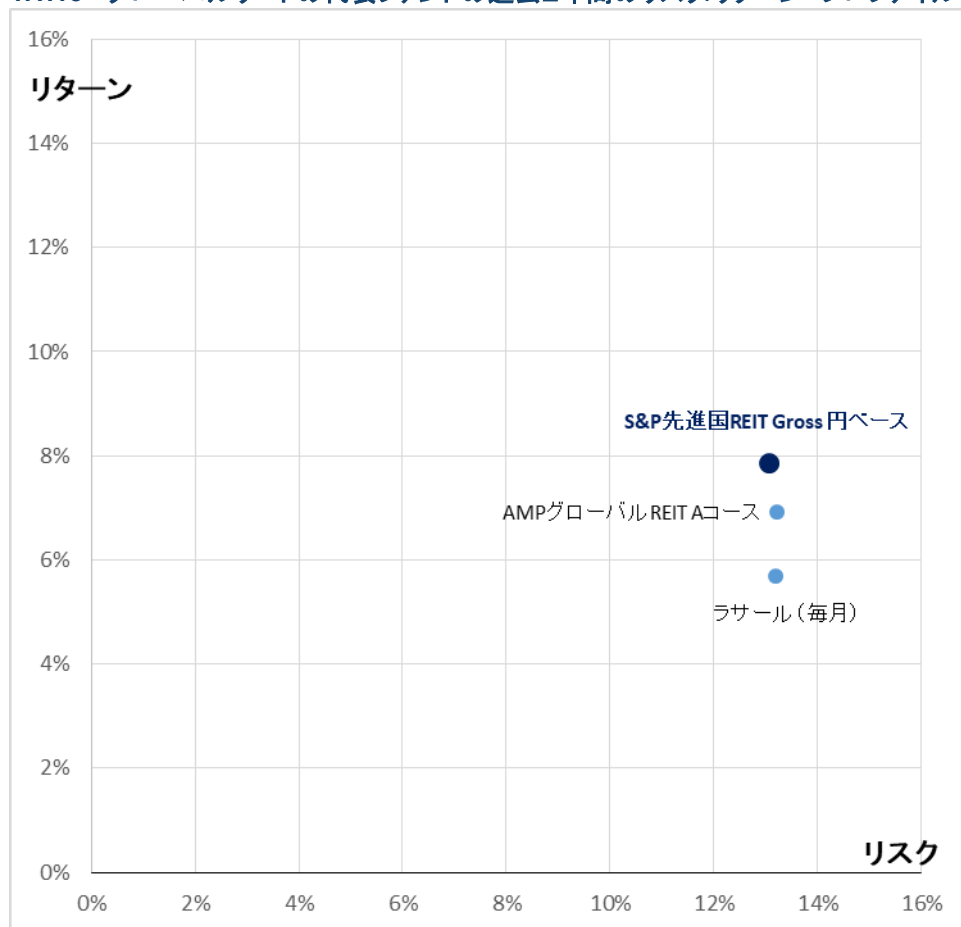
1.1.11 外国株式の代表ファンドの過去2年間のリスク/リターン プロファイル(2019年12月末時点)



1.1.12 外国債券の代表ファンドの過去2年間のリスクリターン プロファイル(2019年12月末時点)



1.1.13 グローバルリート代表ファンドの過去2年間のリスクリターン プロファイル(2019年12月末時点)



1.1.14 代表ファンドの過去3年間のシャープレシオ(2019年12月末時点)

		2019/12 末		A	B	A/B
	ファンド名称	残高(億円)	設定年月	超過収益	標準偏差	シャープ レシオ
1	ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	4,632	2004年3月	4.88%	11.54%	0.42
2	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	4,009	2003年8月	5.72%	5.91%	0.97
3	グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	3,711	2015年8月	14.86%	17.86%	0.83
4	スマート・ファイブ(毎月決算型)	3,539	2013年7月	3.11%	3.19%	0.97
5	グローバル・フィンテック株式ファンド	1,712	2016年12月	22.21%	18.95%	1.17
6	高金利先進国債券オープン(毎月分配型)	1,160	2003年8月	0.40%	4.62%	0.09
7	ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	693	2016年1月	11.47%	14.87%	0.77
8	GW7つの卵	559	2003年2月	6.69%	8.97%	0.75
9	日興五大陸債券ファンド(毎月分配型)	509	2006年6月	1.67%	4.30%	0.39
10	中華圏株式ファンド(毎月分配型)	434	2010年10月	10.58%	18.63%	0.57
11	日興・AMPグローバルREITファンド毎月分配型 A(ヘッジなし)	394	2004年1月	6.02%	11.50%	0.52
12	日興ジャパンオープン	362	1998年8月	10.13%	14.21%	0.71
13	日興ピムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(米ドルコース)(注2)	195	2009年7月	4.91%	5.71%	0.86
14	世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	329	2005年9月	5.12%	6.26%	0.82
15	利益還元成長株オープン	292	1991年6月	11.30%	13.83%	0.82

(注1)リスクフリーレートは、LIBOR1Mを使用。

(注2)ピムコ・ハイソブリンは、同一ストラテジーの代表ファンドである米ドルコース(円建て)のリスクリターンの数値を採用。
米ドルコースは、同一ストラテジーの最大残高ファンドと異なるので、混同防止のため、残高の数値はblankとした。

1.1.15 代表ファンドの過去1年間のシャープレシオ(2019年12月末時点)

		2019/12 末		A	B	A/B
	ファンド名称	残高(億円)	設定年月	超過収益	標準偏差	シャープレシオ
1	ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	4,632	2004年3月	16.94%	10.31%	1.64
2	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	4,009	2003年8月	14.46%	5.12%	2.83
3	グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	3,711	2015年8月	32.84%	19.80%	1.66
4	グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)	3,600	2018年10月	28.37%	8.19%	3.46
5	スマート・ファイブ(毎月決算型)	3,539	2013年7月	8.85%	3.21%	2.76
6	グローバル・フィンテック株式ファンド	1,712	2016年12月	33.82%	19.08%	1.77
7	高金利先進国債券オープン(毎月分配型)	1,160	2003年8月	5.06%	3.38%	1.50
8	ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	693	2016年1月	22.28%	11.62%	1.92
9	GW7つの卵	559	2003年2月	16.08%	7.97%	2.02
10	グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)	557	2018年1月	30.21%	23.72%	1.27
11	日興五大陸債券ファンド(毎月分配型)	509	2006年6月	5.96%	2.45%	2.43
12	中華圏株式ファンド(毎月分配型)	434	2010年10月	29.79%	21.01%	1.42
13	ゴールド・ファンド 為替ヘッジあり(SMA専用)	398	2017年9月	13.84%	12.23%	1.13
14	日興・AMPグローバルREITファンド毎月分配型A(ヘッジなし)	394	2004年1月	23.12%	10.13%	2.28
15	深セン・イノベーション株式ファンド(1年決算型)	385	2017年11月	47.56%	26.02%	1.83
16	日興ジャパンオープン	362	1998年8月	20.61%	12.29%	1.68
17	日興ピムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(米ドルコース)(注2)	-	2009年7月	12.93%	4.81%	2.69
18	世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	329	2005年9月	14.35%	5.63%	2.55
19	利益還元成長株オープン	292	1991年6月	24.30%	11.75%	2.07

(注1)リスクフリーレートは、LIBOR1Mを使用。

(注2)ピムコ・ハイソブリンは、同一ストラテジーの代表ファンドである米ドルコース(円建て)のリスクリターンの数値を採用。

米ドルコースは、同一ストラテジーの最大残高ファンドと異なるので、混同防止のため、残高の数値はblankとした。

1.1.16 代表ファンドのインベスターリターン(期間は設定来)

	ファンド名	インベスターリターン(年率)	基準価額の騰落率(年率)
1	ラサール・グローバル REIT ファンド(毎月分配型)	9.70%	5.02%
2	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	1.31%	5.25%
3	グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	9.47%	12.76%
4	グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)	19.74%	22.69%
5	スマート・ファイブ(毎月決算型)	3.68%	4.39%
6	グローバル・フィンテック株式ファンド	16.79%	21.68%
7	高金利先進国債券オープン(毎月分配型)	3.37%	3.89%
8	ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	5.50%	11.20%
9	GW7つの卵	0.49%	5.91%
10	グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)	2.66%	-0.14%
11	日興五大陸債券ファンド(毎月分配型)	0.12%	2.90%
12	中華圏株式ファンド(毎月分配型)	-0.33%	5.46%
13	ゴールド・ファンド 為替ヘッジあり(SMA 専用)	6.62%	3.84%
14	日興・AMP グローバル REIT ファンド毎月分配型 A(ヘッジなし)	7.95%	6.48%
15	深セン・イノベーション株式ファンド(1年決算型)	-2.01%	0.45%
16	日興ジャパンオープン	-3.95%	3.10%
17	日興ピムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(米ドルコース)	-10.06%	7.55%
18	世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	-4.59%	4.34%
19	利益還元成長株オープン	-26.01%	12.41%

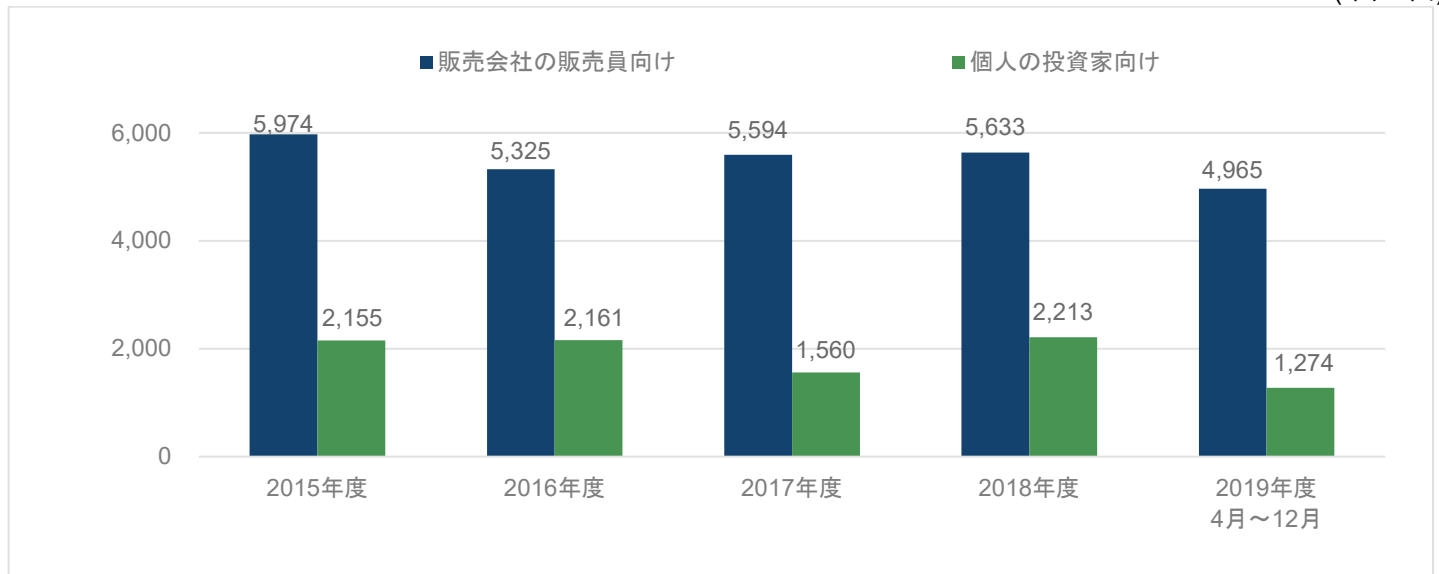
(注)日興ピムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(米ドルコース)、利益還元成長株オープンは、過去データ取得の関係上、計算期間を2010年9月末からとした。

1.1.17 「日興 AM ファンドアカデミー」ブランドでの情報発信

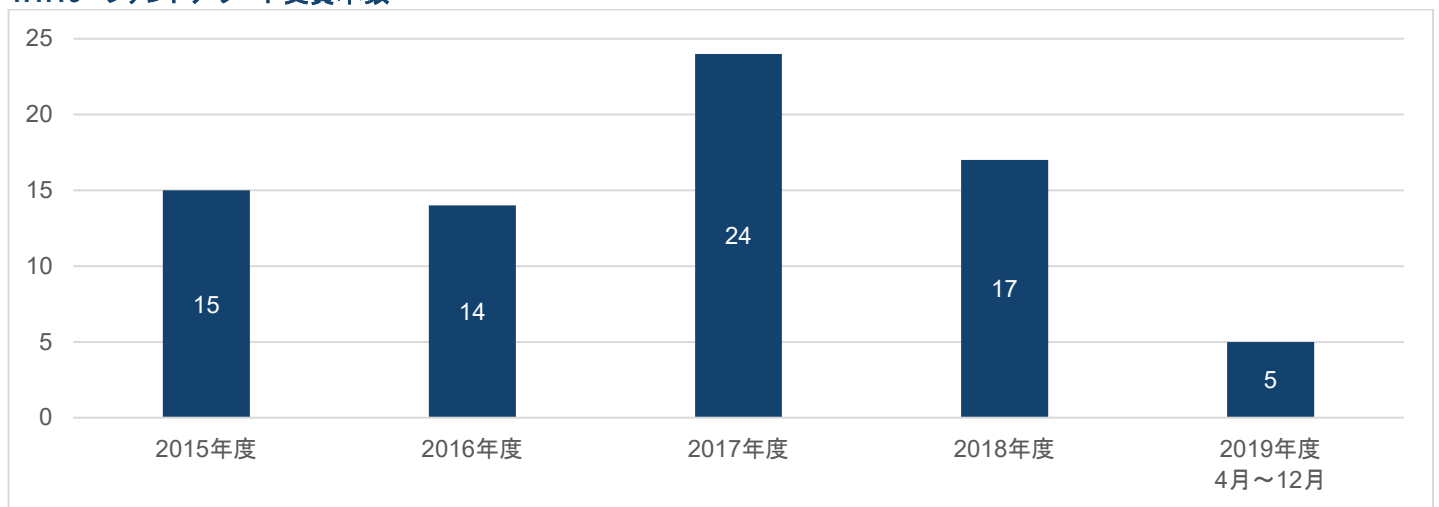
シリーズ化された主な投資情報	配信頻度	備考
楽読(ラクヨミ)	週 2 回程度	2019 年は 112 回
こよみ	月 1 回	
語句よみ(ごくよみ)	月 1 回	
マーケット 5 ミニッツ	月 1 回	
ウィークリー・マーケット	週 1 回	
データウォッチ	週 1 回	
フォローアップ・メモ	不定期	2019 年は 7 回
グローバル REIT ウィークリー	週 1 回	
マンスリー・マーケット	月 1 回	
JAPAN in Motion	月 1 回	
GLOBAL EQUITY OVERVIEW	四半期	
日興 AM ニュースレター	不定期	2019 年は 3 回
CHINA INSIGHT	不定期	2019 年は 19 回
KAMIYAMA Reports	不定期	2019 年は 28 回
KAMIYAMA Seconds!	不定期	2019 年は 51 回
投資ってなんだ!?	不定期	2019 年は 4 回
Robotics Report	月 2 回	
ふいんてっく通信	月 2 回	
日興アセットマネジメントがお伝えしたいこと	不定期	2019 年は 1 回

1.1.18 セミナー開催回数

(単位:回)



1.1.19 ファンドアワード受賞本数

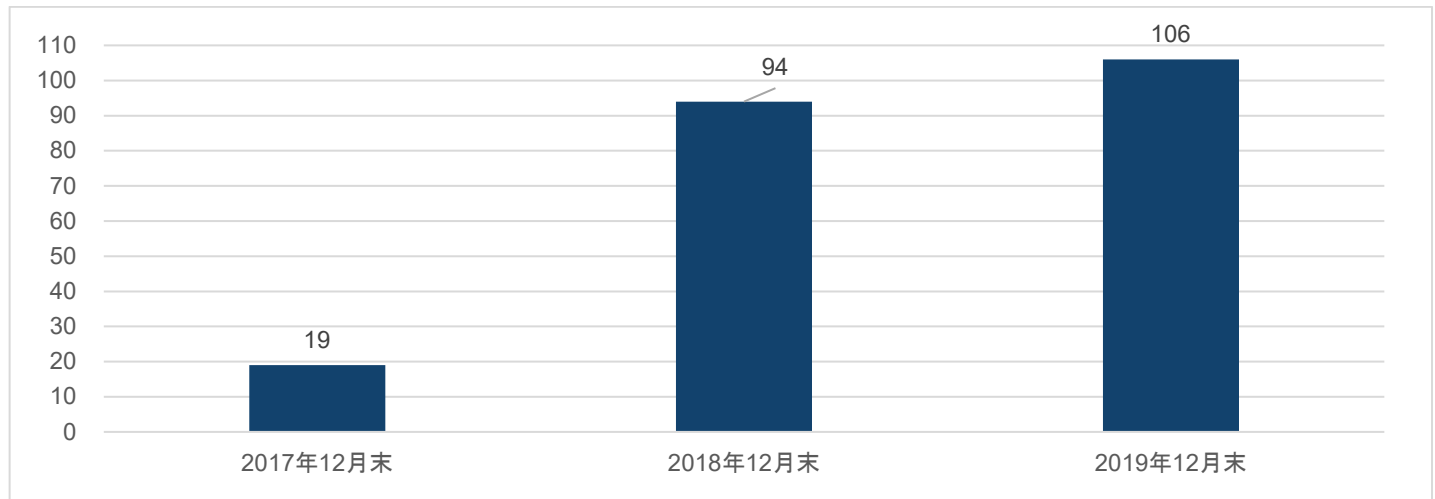


当社は、商品開発がお客様の利益に適ったものになるように、日々業務運営を行っております。外部評価機関による評価では、2019年度(2019年4月～12月)は、国内株式1本、海外株式2本、海外債券2本の計5本のファンドが受賞いたしました。

※集計対象は「R&I ファンド大賞」、「ファンド オブ ザ イヤー」(モーニングスター)、「リッパーファンドアワードジャパン」。

1.2 法人のお客様に向けた活動

機関投資家様向けリスク管理ツールの利用アカウント数



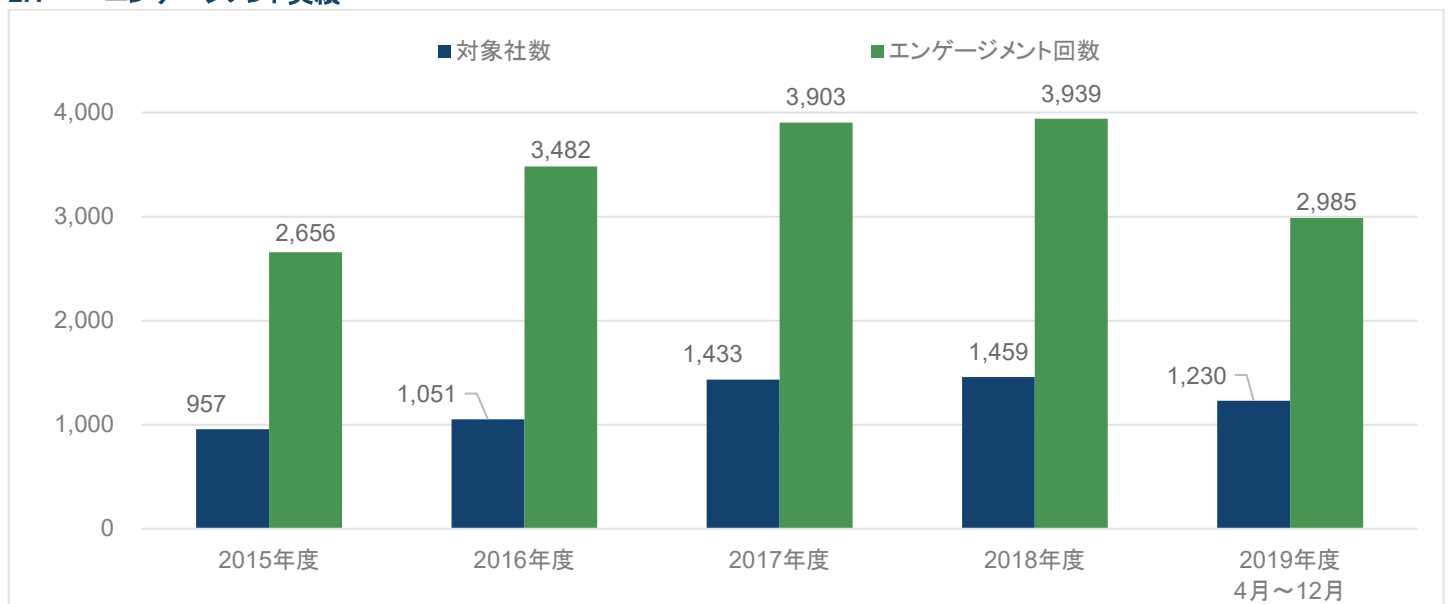
機関投資家の皆様に対しては、お客様のニーズをお伺いして、ニーズに応えようと努力することが出発点となりますが、その上でお客様のリスク選好度に応じた運用商品を提案させていただくことが、当社の販売活動の形となります。この一環として、2017年12月に、法人投資家の皆様に向けてリスク管理の向上に資するツールとサポートの提供を開始いたしました。2019年12月末時点の利用アカウント数は106件になります。

2. スチュワードシップ活動

私たちは、投資先企業の価値を投資家の立場から向上させるお手伝いをさせていただくこと、つまり、議決権行使を含むスチュワードシップ活動に積極的に取り組むことは、資産運用会社としての極めて重要な責務であると考え、継続的な活動と地道な内容改善を目指して努力を続けております。また、ESG については、全ての運用のプロセスの中に ESG の概念を組入れており、中長期的な企業価値の向上、持続的成長を促すために非財務情報を含む企業価値評価を行い、投資意思決定に役立てております。この取り組みをさらに全世界的に推進していくために、ESG グローバル・ステアリング・コミッティーを組織しており、国内外の運用拠点のリーダーがメンバーとなり、ESG 投資の取り組みや実践方法、新たなアプローチ方法などを協議・模索しております。

以上に挙げた項目につきまして、これまでの取り組みやその成果をご紹介します。

2.1 エンゲージメント実績



当社ファンドマネージャー、アナリストは従前より、アクティブ戦略の投資先企業の企業価値向上を目論むエンゲージメント、議決権行使活動に積極的に携っています。2013年より、ESG 価値評価を加えた包括的な企業評価手法である CSV 評価をスタートさせ、対象企業 600 社超に対して、中長期的な視点から、持続的成長、企業価値向上に資する取り組みを中心に評価を行っています。また、2017年3月にパッシブ戦略を含めた日本株全保有株式について、投資先の企業価値・株主価値向上を促進するための活動を行う専門の組織を発足させました。これにより、投資先企業の株主価値の最大化を図る目的をもって行うエンゲージメント及び議決権行使活動をさらに推進していく態勢が整いました。2019年(4月～12月)の当社のエンゲージメント対象社数は、1,230社。また同期間のエンゲージメント回数は、2,985回になります。

2.2 議決権行使の実績

会社提案 2018/7 - 2019/6

議案種類		賛成	反対	計	反対比率
会社機関に関する議案	取締役の選解任	14,703	3,129	17,832	17.5%
	(参考)会社単位	1,247	912	2,159	42.2%
	監査役の選解任	2,522	215	2,737	7.9%
	(参考)会社単位	1,022	187	1,209	15.5%
役員報酬に関する議案	会計監査人の選解任	57	1	58	1.7%
	役員報酬	758	87	845	10.3%
資本政策に関する議案 (定款に関する議案を除く)	退任役員の退職慰労金の支給	144	43	187	23.0%
	剰余金の処分	1,396	120	1,516	7.9%
	組織再編関連	56	0	56	0.0%
	買収防衛策の導入・更新・廃止	2	71	73	97.3%
	その他 資本政策に関する議案	58	2	60	3.3%
定款に関する議案		532	33	565	5.8%
その他の議案		1	0	1	0.0%
計		20,229	3,701	23,930	15.5%

株主提案 2018/7 - 2019/6

議案種類		賛成	反対	計	賛成比率
会社機関に関する議案	取締役の選解任	14	30	44	31.8%
	(参考)会社単位	2	16	18	11.1%
	監査役の選解任	0	2	2	0.0%
	(参考)会社単位	0	2	2	0.0%
役員報酬に関する議案	会計監査人の選解任	0	0	0	0.0%
	役員報酬	1	8	9	11.1%
資本政策に関する議案 (定款に関する議案を除く)	退任役員の退職慰労金の支給	0	0	0	0.0%
	剰余金の処分	0	10	10	0.0%
	組織再編関連	0	0	0	0.0%
	買収防衛策の導入・更新・廃止	1	0	1	100.0%
	その他 資本政策に関する議案	0	0	0	0.0%
定款に関する議案		0	0	0	0.0%
その他の議案		3	87	90	3.3%
計		19	137	156	12.2%

投資先企業の価値を投資家の立場から向上させるお手伝いをする、つまり、議決権行使を含むスチュワードシップ活動を通じて企業の持続的な成長をお手伝いすることは、機関投資家としての責務です。社内のガバナンスを強固なものとし、社外的な透明性を強化するために「スチュワードシップ&議決権政策監督委員会」を、2016年6月に発足させました。この監督委員会は、委員の過半数を社外役員が占める体制とすることで独立性を担保しています。この委員会は、監督活動の一環として、議決権行使状況のモニタリング、指導などを行います。

2.3 ESG への取り組み

日本で初めての SRI(※)ファンドであり、環境に優れた企業に投資する日興エコファンドの運用を 1999 年に開始して以来、ESG 要素に関しては、中長期で企業価値に寄与するものと捉え、全ての運用プロセスに組み込んでおります。さらに責任ある投資を実現していくために、常に新しい取り組みを続けています。当社では 2013 年 8 月より、共通価値創造、CSV (Creating Shared Value。社会の課題の解決と企業の利益の方向性を合わせ、その両立を図ることで、社会と企業の両方に価値を生み出すというもの)という考え方を応用し、社内アナリストが企業の財務、市場競争力、ESG を包括的に評価する CSV の独自スコアリングを策定し、銘柄選択に活用しております。現在東京証券取引所に上場されている 600 銘柄を対象としており、中長期的な視点から、評価を行っています。CSV 評価対象企業 600 社に対しては、社内アナリストが密にエンゲージメントを実施し、ESG 価値を含めた企業価値の改善に日々勤しんでおり、既に 6 年を超える価値評価、エンゲージメント実績を有しています。

※SRI は、Socially Responsible Investment の略称であり、社会的責任投資のことを意味します。社会的責任投資は、企業への投資を行う際に、従来の投資基準(企業の経済面)に加え、環境や社会への取組み(責任や貢献)も評価に取り入れる投資の考え方(手法)を言います。

その他の取組については以下のとおりです。

評価機関による責任原則(PRI)のレーティング

	2019 年	2018 年	2017 年
責任投資へのアプローチ	A+	A+	A+
上場株式における責任投資への統合状況	A+	A+	A+
上場株式におけるアクティブ・オーナーシップ	エンゲージメント	A+	A+
	議決権行使	A+	A+
債券投資-国債等	A+	A+	A
債券投資-社債(金融業)	A+	A+	B
債券投資-社債(非金融業)	A+	A+	B

社会的責任投資(SRI)を投資テーマとするファンド

2019 年 12 月 30 日

投資対象	ファンド名称	残高(億円)
国内株式	日興エコファンド	80
	年金積立 エコファンド	8
海外債券	世界銀行債券ファンド	146
	SMBC・日興 世銀債ファンド	18
	グリーン世銀債ファンド	28

2007 年から、当社は国連の責任投資原則(Principles for Responsible Investment、PRI)の署名機関になっています。運用機関としては先駆的な動きですが、これは、中長期的な企業価値の創造と持続可能責任投資に寄与したいという当社のコミットメントの現れです。この PRI による評価(A+~E の 6 段階評価)では、当社は「責任投資へのアプローチ」を始め、主要な項目において、6 段階の最高評価である「A+」を継続しました。

また、2017 年 3 月の専門の組織の発足により、当社の ESG 調査対象は従来の約 950 社(アクティブ戦略の投資ユニバース)から、2019 年 12 月現在で約 2,200 社(パッシブ戦略の投資先を調査対象に追加)に拡大しました。

3. 当社の企業としての ESG への取組みについて

私たちは投資先企業に対して ESG への取組みを追求する以上、私たち自身も ESG への取組みを会社として進めていくことが大事だと考えています。

3.1 ガバナンス

私たちは、資産運用会社として投資先の企業のガバナンス向上を要求する以上は、自らもグローバル水準のガバナンスを常に追求し続けていきたいと考え、3つのガバナンスを実行しています。

3.1.1 経営のガバナンス

当社の取締役会は社外取締役が議長を務め、2019年12月末現在10名中7名が社外取締役、うち当社と資本関係のない独立取締役は6名という体制であり、本邦の運用業界においては極めて独立性と透明性の高いガバナンス態勢を確保しています。2018年12月末時点と比べ、取締役10名中社外取締役は5名から7名へ、資本関係のない独立取締役は4名から6名へと、全取締役に占める社外取締役及び独立取締役の比率を高めており、牽制機能をより充実させたコーポレート・ガバナンス態勢を実現しています。

また、2019年6月、当社は取締役会の監査・監督機能の強化、コーポレート・ガバナンス態勢の一層の充実及び企業価値の向上を目的として、監査等委員会設置会社に移行しました。これにより、モニタリング・ボード型のガバナンスも取り入れた態勢となり、経営の監督と業務執行の分離も一層明確かつ経営判断が迅速になりました。

3.1.2 議決権行使のガバナンス

私たちは、2016年6月に、企業とのエンゲージメントや議決権行使などのスチュワードシップ活動における透明性向上とガバナンス強化を図るため、社外委員が過半数を占めるスチュワードシップ&議決権政策監督委員会を発足しました。このような第三者委員会の設置は、国内の運用会社で初めての試みです。同委員会は、原則として四半期に一度開催されており、社外委員との間で活発な意見交換が行われております。これまで合計で18回の開催実績を持ちます(2019年は、6回開催)。詳しい活動については[別紙](#)をご参照ください。

3.1.3 ファンドのガバナンス

2017年9月に、社外委員が過半数を占める、ファンド・アドバイザー・ボードを発足し、原則として四半期毎に同委員会を開催することとしております。これまで合計で7回開催し社外委員との間で意見交換を行いました(2019年は、3回開催)。詳しい活動については、[別紙](#)をご参照ください。

3.2 環境

私たちは、環境に配慮した職場作り、社員主導の環境への取組み、CO₂(二酸化炭素)排出量の最小化などを通じ、持続可能な環境への貢献に尽力します。

● カーボン・ニュートラルの達成

当社は、2018年度の事業における東京、シンガポール、シドニー、オークランド、ニューヨーク、ロンドンの各オフィスの二酸化炭素排出量を評価し、排出量を相殺するため、同等の二酸化炭素削減プロジェクトに資金を提供し、これにより「カーボン・ニュートラル企業」の認定を受けました。

海外を中心に、運用会社の持続可能な取組みについてお客様から問い合わせを受けることが増えており、他業種と比較すると環境へのインパクトは限定的でありながらも、TCFDをサポートしている運用会社として、気候変動やその他の環境問題に対する意識を高めていくことが重要と考えています。

3.3 社会

私たちは、多様性を尊重し、排他的でない職場環境を社内で維持することや、社外でのチャリティー活動や慈善寄附などを通じ、社会的理念の推進に貢献します。

- ウィメンズ・グループ

私たちは、国連の「女性のエンパワーメント原則」(女性の活躍推進に積極的に取り組む企業の国際的行動原則)に署名した初めての日本の資産運用会社です。私たちは、日本および日本以外の全ての拠点において、社員一人ひとりが多様性をより深く理解して尊重することで、誰もが働きやすい職場づくりを目指します。

- LGBT

私たちは、日本でLGBTの支援に取り組む金融関連企業によって設立された支援団体『LGBTファイナンス』のオフィシャルメンバーです。当社が注力するこの取り組みは、社員による支持のみならず、経営陣からも積極的に支援されています。当社は、LGBTについての理解醸成を図る啓発活動を行なっています。

- アイデア・ジェネレーション・フォーラム

当社では全社にわたり、社会的な問題も含めて、透明性を追求し、オープンな議論を促進しています。LGBTに関する取り組みは、このフォーラムで提案されたものであり、他にもここで議論された多くの議題が、当社のESGへの取り組みにつながっています。

- 慈善団体への寄付および支援活動

私たちは、全社的にグローバルなチャリティーや慈善活動に参加すると同時に、これを補完すべく、各国・地域での奉仕活動や慈善団体の事業に参加しています。

(一例)当社は、JICA(独立行政法人国際協力機構)の企画で、NPO法人難民支援協会が実施する、「シリア平和への架け橋・人材育成プログラム(Japanese Initiative for the future of Syrian Refugees:JISR)」に参加しているシリア出身の大学院生3名をインターンとして受け入れ、日本企業での就業体験と共に、ビジネススキルを学ぶ機会を提供しました。このインターンシップは当社のUNHCR※(国連難民高等弁務官事務所)とのパートナーシップにより実現しました。

<おわりに>

当社は2019年12月で設立60周年を迎えました。世界を取り巻く環境の変化やテクノロジーの高度化、金融商品の発達といった様々な変革の中で当社が一貫して目指してきたこと、またこれからも引き続き強い使命感を持って取り組んでいくこと、それは、「お客様の最善の利益」の追求です。

日興アセットマネジメントは、お客様から一層信頼されパフォーマンスで評価される会社になることを目指し、運用能力の高度化、お客様の利益の最大化を図る商品開発力の追求、コーポレート・ガバナンスの強化に注力して参ります。